

第7回スクールミーティング意見交換内容

- 日時： 平成26年1月21日（火）午後4時30分～午後6時00分
- 会場： 市立三和中学校図書室
- 参加者： 熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、泉委員、田口委員、廣塚教育長）5人及び事務局教職員18人（三和中6人、高橋小4人、池上小4人、城山小4人）
- テーマ： ①「徳・知・体」の調和のとれた子どもたちを育成するために必要なこと
②学校における現状と課題
③いじめや体罰の問題について
④部活動について

（◆：質問、○：意見、▼：要望）

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
1	①	小学校での学びノート教室	<p>○「学びノート教室」は6限目後の放課後に実施している。高学年の「学びノート教室」は、上の階の教室で実施されており、夏は気温35℃近くになり、冬は暖房器具もない寒い中での実施となる。その環境では、意欲的にも影響があり、学習には適さないと感じる。</p> <p>○「学びノート教室」は、かかっている費用に対する効果が上がっているのか疑問である。</p> <p>○年間20回計画するが、18回程度の開催となり、3年生以上は全員参加している。 ○低学年は朝自習で活用している。</p> <p>○本校でも年間18回程度開催し、3年生以上は全員参加している。3年生では5時間授業のときの6限目に開催している。 ○「学びノート」は基礎基本を身に付けるために、教科の授業の中でも活用しており、使いやすと感じている。「学びノート教室」は授業時数としてカウントしないので、6限目が使える学年は良いが、高学年はきつい。</p> <p>○「学びノート教室サポーター」に予算が使われており、開催に疑問を感じている。学びノートを授業で使うことは、定着に効果的なので活用している。</p> <p>○本校は、希望者のみに指導している。3年生は6限目、4～5年生は6限目後の放課後に開催し、年間18回程度実施している。</p>	<p>◆「学びノート教室」は、各学校どのくらい開催していて、やることにどのくらいの意味があるのかを聞かせてほしい。</p> <p>○「学びノート教室」は、理解に時間のかかる子どもを対象に開催する趣旨であった。全員受講と聞き、驚いている。 開催に伴う教員の負担を減らすため、学びノート教室サポーターも配置しているが、負担になっているのであれば、「学びノート教室」のあり方を考え直す時期に来ていると考える。（教育長）</p>
2	①	ICT	<p>▼大型テレビでの授業は効果が高いが、配備台数が少なく使いづらいので、各学年に大型テレビを1台ずつ配備してほしい。</p> <p>○パソコンを活用して、自閉症・情緒学級の子どもに人間関係のトレーニング等を指導しているが、効果的である。</p>	<p>○稼働率や成果を財政部門へ示さないと、ICTの整備は進まない。モデル的な成功例が必要である。（事務局）</p> <p>◆特別な教育的支援の必要な子どもにとって、ICTは有効か。</p>

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
3	①	少人数学級	<p>▼本校では、4年生までは2学級だが、5年生から1学級39人になる。1学級35人以下と40人以下とでは、担任の負担の差は大きい。高学年への少人数学級の拡充を希望する。</p> <p>○少人数学級は教員の負担は減るが、子ども同士の学びあいの機会が減るとい側面もある。少人数指導でさらに魅力的な授業ができるよう、教員の研修が必要である。</p> <p>○学力の向上以前に、家庭の状況が厳しい子どもや、特別な教育的支援が必要な子どもが増えている中、一人ひとりに目を配ることができる少人数学級は大事である。</p>	<p>○教育委員会では、本市の課題の一つである学力向上のための施策を検討している。全学年での少人数学級実施の要望があるが、1学級の人数が最初から少人数である小規模校で、学力が高いわけではない。</p> <p>○少人数学級の実施には、人件費や教室整備等、多くの予算が必要であるため、当面は難しいと考える。</p> <p>○少人数教育による、子どもの学力の向上や教職員の負担軽減への効果の証明が困難である。そこで、教育委員会では、実験的な検証を進めていきたいと考えている。</p> <p>○教員の人件費は県が負担しているため、県と相談していきたい。教員のご意見をいただき、人の配置や予算の獲得に努めたい。(事務局)</p> <p>○少人数学級の導入検討時には、モデル校で効果を検証した。教師が子ども一人ひとりに関わることができる効果や、いじめ・不登校件数の減少を期待し、小学校低学年から導入した。 高学年では、子ども同士の学びあいを重視し、T Tや少人数指導を行うことにした。 また、中1への導入の目的は「中1ギャップ」の解消であったが、不登校件数は、少人数学級導入でも減少していない。 導入当初は、少人数を活かした効果的な指導法が工夫されていたが、導入から10年以上が経ち、少人数の規模に慣れてしまったのではないか。 学校と事務局との少人数教育に対する思いにずれが生じている。学級の人数を半分に分割し、同じ授業を、別の教室に分かれてやっていただけの授業を参観し、残念に思った。 国も、少人数学級の効果の実証を示せず、予算の獲得ができていない。 少人数学級を取り巻く現状から、他の学年に拡充する段階にはないと考える。少人数教育を検証する時期にきている。(教育長)</p>
4	①	道徳教育	<p>○本校では、道徳主任が計画を立て、効果的な道徳教育を推進している。</p> <p>○中学校では、生徒指導対応や部活動の指導等にかかる時間が多く、道徳教育の推進に十分な時間を確保することが難しい。</p> <p>○現在作成中の手引書は活用できると考えている。</p> <p>▼教員が道徳の研修会やブロック別の研究会等に参加できるように、十分な出張旅費を確保してほしい。</p> <p>○市内での道徳の研修の機会があると良い。</p>	<p>◆特に中学校での道徳の授業を大事にしていきたい。どうしたら推進できるとお考えか。(教育長)</p> <p>○県費負担教職員の旅費は、県の予算による。(事務局)</p>

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
5	①	小学校の外国語活動	<p>▼英語が得意ではなく、高学年の担任になっている場合、負担が大きい。ALTがいるときは、ALTが主となって授業をしてもらっている。 小学校に外国語活動の専科の教員の配置を希望する。</p> <p>○担任単独で外国語活動の授業をするときが大変である。</p>	<p>◆専科の配置までは時間が必要である。事務局で工夫できることはあるだろうか。(教育長)</p> <p>○外国語活動で、担任の先生には授業をコントロールすることが求められている。(事務局)</p> <p>○子どもたちに、英語の楽しさを伝えてほしい。(教育長)</p> <p>○精神の国際化が大事。</p>
6	①	小中連携	<p>○幼小中連携の日に意見交換をした。現在は、小学校の先生が中学校の英語の授業を参観している。小学校英語の教科化で、小中の連携が重要となる。</p>	<p>◆英語教育について、小中連携は考えられないか。</p>
7	②	SC(スクールカウンセラー)	<p>○生徒指導と共に学力も向上し、幼保小中連携により、中1ギャップが少なくなったが、家庭からの協力が得られないこともある。生徒指導で問題のある生徒の保護者に対しても働きかけられないか。</p> <p>○協力的な保護者もいれば、非協力的な保護者もいる。 SCについては、保護者へも情報提供しているが、うまく活用されていないようだ。また、悩んでいる子どもが、SCへ相談した件数は少なかった。</p> <p>○本校は、SCの派遣日数が多い「拠点校」ではなく、月1～2回程度の派遣を受ける「対象校」を希望した。 SCで不足する日数分は、心のサポート相談員が配置され、不登校への対応にあたってもらっているが、マンパワーが不足している。</p>	<p>◆PTAはどのような役割を果たしているのか。子どものことで困っている保護者は、どれだけSC(スクールカウンセラー)を活用して悩みを相談しているのか。</p>
8	②	不登校への対策	<p>▼不登校の生徒の家庭訪問等を担任が行っている。不登校関係の支援をしてくれる人が学年に1人いればとても助かる。配置してほしい。</p> <p>▼SCには専門的なサポートをいただいている。さらに、実際に動いてくださる心のサポート相談員やSSWの増員を望む。</p>	<p>○家庭の力が低下したことにより、教員の負担が増えている。</p>
9	②	教職員駐車場の有料化		<p>○学校には公用車がないため、自家用車を公務に使用する制度を設けている。 校地内に駐車すると、公有財産の適正管理の観点から、料金が発生すると考えるが、勤務の特殊性を考慮すると、一定の配慮が必要である。 関係部局と協議しているが、見通しは立っていない。(教育長)</p>
10	②	教職員の多忙感	<p>○昼間は子どもに関わり、夜間に事務処理をしている。小規模校は、教員一人の校務分掌が多く、書類作成に負担感を感じる。 教師として、子どもへの愛情と誇りを持って仕事しており、多少の多忙感は覚悟の上である。そのような中、リーダーの姿勢に、自分も一緒に頑張りたいという気持ちになり、教職員の士気に影響する。</p>	<p>○公文書の扱いについて事務局で整理し、教員の負担感を軽減したいと考える。(事務局)</p>

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
11	②	相談体制	<p>○日常の指導の中で、どこまでが適正な指導なのか自分の判断でおこなっている。</p> <p>例えば、不登校生徒の家庭訪問は、担任やその他の職員が毎日自動車で行っているが、生徒を学校に連れて行く場合など、どのように対応すべきか、専門家や弁護士等に気軽に相談できるような仕組みがあればよい。</p>	
12	③	関係機関との連携	<p>▼各種相談機関と連携しているが、予約が多く数ヶ月待ちであり、早期の対応が困難であるので、改善を望む。</p>	<p>○福祉部門でも改善は図っているが、解消には至っていない。(教育長)</p>
13	④	部活動	<p>○基礎学力の定着には、学習した内容の地道な繰り返し有効である。放課後の個別指導や教材研究等が終わると19時頃になり、提出書類の作成のために遅くまで残るか、自宅へ持ち帰るか、週末に出勤するかである。部活動の担当は指導もある。家事や年長いた親の世話もあり、それら全てが多忙感につながっている。</p> <p>○部活動の指導は、子どもの心と体の成長に効果的だが、授業研究も行いたい。</p> <p>○部活動の指導は、時間的、技術的、体力的に無理がある。授業準備や校務処理の時間を圧迫し、自主的な研修にも参加しづらい。体力的にも家庭生活にも負担が大きい。民間のスポーツ教室などを利用できないか。</p> <p>○部活動の指針に沿って指導してくれる外部指導者を見つけるのが大変である。</p> <p>○経験したことのない種目の部活動担当となり、当初戸惑った。部活動の指導と授業準備で時間が不足する。</p>	<p>○小学校の部活動は、もともと社会体育が担っていた。勝利至上主義の行き過ぎた指導が社会問題となり、熊本県が学校教育に位置づけた経緯がある。小学校の部活動を再び社会体育に戻すのには、困難が予想される。(事務局)</p>